

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	論理国語	2	3年	特進コース

使用教科書	副教材等
『探究 論理国語』(桐原書店)	『現代文キーワード読解』(Z会)

<p>科目の目標</p> <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容への取り組み</li> <li>課題、提出物の内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りの記述</li> <li>定期テスト</li> <li>発問への解答</li> <li>小テスト</li> </ul>

学習計画				評価の観点		
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	①	②	③
一学期中間テスト	文章の要旨を読む	オブジェとイメージ	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらい要旨を把握することができる。	○	○	
	根拠をもって書く	知的創造のために	情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができる。		○	○
一学期期末テスト	新しい見方を読む	ファンタジー・ワールドの誕生	人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な観点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができる。	○	○	
	構成や展開を工夫しながら書く	霧の風景	立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができる。		○	○
二学期中間テスト	吟味しながら読む	市民社会化する家族	主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができる。	○	○	
	題材を決めて書く	ポストモダンと排除射会	実社会に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めることができる。	○	○	
	複数の資料をもとに読む	「貫之は下手な歌よみ」か？	設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができる。		○	○
二学期期末テスト	表現を工夫して書く	日本文化私観	個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫することができる。	○	○	
	吟味しながら書く	沙魚	多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。	○	○	
学年末テスト	評価しながら読む	侏儒の言葉	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することができる。		○	○
	助言を踏まえて書く	真理の探求と民主主義	文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。	○	○	
	資料に注目して読む	地図の想像力 —— ボードリヤールの寓話	関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めることができる。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	文学国語	2	3年	特進コース

使用教科書	副教材等
探求 文学国語(桐原書店)	

<b>科目の目標</b> 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようになる。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

<b>評価の観点とその趣旨</b>	
① 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。
② 思考・判断・表現	「書くこと」「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
<b>評価方法</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容への取り組み</li> <li>課題、提出物の内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りの記述</li> <li>定期テスト</li> <li>発問への解答</li> <li>小テスト</li> </ul>

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	語り手の視点や場面の設定の仕方などについて評価することを通して、文章の内容を解釈する	愛のサーカス	物語の展開を基に、作品の持つ寓意について説明することができる。	○	○	○
	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える	檸檬	「私」の心身の状態によって、事物の捉え方がどのように変化しているか捉えることができる。	○	○	○
一学期期末テスト	作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深める	変身 山月記	「変身」とそれ以外の変身物語とを比較し、共通点と相違点について考察することができる。	○	○	○
	選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にする	客ざらい エッセイを書く	日常生活の事物や体験を題材としてエッセイを書くことができる。	○	○	○
二学期中間テスト	他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察する	冬眠 ●(大きなピリオド)	草野心平の詩とそれを踏まえた谷川俊太郎の弔辞を読み、「冬眠」で表現されていることは何か考察することができる。	○	○	○
	文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察する	畜犬談	犬に対する「私」の考えや行動を踏まえて、「私」がどんな人物か考え、意見を述べ合うことができる。	○	○	○
	文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫する	文学評論Ⅰ	詩を創作し、修辞の働きを考慮して推敲することができる。	○	○	○
二学期期末テスト	作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するもの見方、感じ方、考え方を深める	舞姫	「豊太郎」の言動に表れている「出世」に対する意識を読み取り、自分自身の考えと比較することができる。	○	○	○
	読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫する	文学評論Ⅱ	本文の内容を踏まえ、自分で選んだ和歌や漢詩を工夫して現代語に翻訳することができる。	○	○	○
学年末テスト	設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のもの見方、感じ方、考え方を深める	短歌—寺山修司十首	寺山修司による複数の短歌を読み、その作風について評価する文章が書ける。	○	○	○
	読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直す	短編小説を書く	テーマを決めて書いた短編小説を読み合い、評価し合うことができる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	古典探究	2	3年	3年特進コース

使用教科書	副教材等
『古典探究 古文編』『古典探究 漢文編』大修館書店	『体系古典文法』数研出版 『読むで見て見える重要古文単語315』桐原書店 『新明説漢文』尚文出版

<p>科目の目標</p> <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2)論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
---

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。
② 思考・判断・表現	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容への取り組み</li> <li>・課題(パフォーマンス課題等も含む)、提出物の内容</li> <li>・定期テスト</li> <li>・振り返りの記述</li> <li>・小テスト</li> </ul>

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	説話の展開を的確に捉える	今昔物語集「馬盗人」	頼信・頼義父子の心理と行動を、時系列に沿って整理することができる。	○	○	○
	古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える	十八史略「水魚の交はり」	本文の末尾における劉備の心情を説明することができる。	○	○	○
一学期期末テスト	書き手の考えを捉えて文章の内容を解釈する	枕草子 「うれしきもの」「この草子、目に見え心に思ふことを」	文章に表れている清少納言の考えや意図を読み取る。	○	○	○
	漢詩の構成について評価する	杜甫「石壕吏」 白居易「賣炭翁」	一句の字数、句数、押韻などを近体詩と比較し、評価する。	○	○	○
二学期中間テスト	他の作品との関係を踏まえて読む	紫式部日記 「和泉式部と清少納言」 無名草子 「紫式部のこと」	紫式部による同時代の人々への評価と、後世の人々による紫式部への評価とを比較し、共通点と相違点を考える。	○	○	○
	作品の内容を自分の知見と結びつけ、考えを広げる	論語「過猶不及」 東照宮御遺訓	二つの文章における考えの違いを読み取り、自分の考えをまとめる。	○	○	○
二学期期末テスト	作品に表れているものの見方を踏まえ、自分の考えを広げる	源氏物語 「紫の上の死」	臨終に近い紫の上の行動について、自分の考えをまとめる。	○	○	○
	関心を持った事柄に関する文章を基に、自分の考えを深める	白居易「長恨歌」 長恨歌と日本の文学	「長恨歌」の影響を受けた日本文学作品の中から一つを選び、その関係について自分の考えをまとめる。	○	○	○
学年末テスト	文章を多面的・多角的な視点から評価することで、考えを深める	大鏡「肝だめし」 山本健吉「二つの教養」	「大鏡」における藤原道長の描写について述べた文章を読み、現代における教養について考えを深める。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
地理歴史	日本史探究	2	3年	特進コース文系

使用教科書	副教材等
詳説 日本史	図説 日本史通覧, 詳説 日本史整理ノート, 共通テスト対策トライアル日本史探究+歴史総合

科目の目標
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容への取り組み</li> <li>発問評価</li> <li>課題、提出物の内容</li> <li>小テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期テスト</li> <li>振り返りの内容</li> <li>対話的な学びに対する取り組み</li> </ul>

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
① 中間テスト	第9章 幕藩体制の成立と展開 第10章 幕藩体制の動揺	幕藩体制の成立	江戸幕府の外交政策の推移と世界の諸国や諸地域の動向を踏まえ、鎖国に至った経緯を多面的・多角的に考察する。		○	
		幕藩社会の構造	幕藩社会における身分制の構造や諸産業の発達を理解する。	○		
① 期末テスト	第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立	幕政の安定	戦乱の終結を機に、幕政が文治政治に転換する過程を多面的・多角的に考察する。		○	
		経済の発展	諸産業の発達に伴って、貨幣経済も発達したことを理解する。	○		
② 中間テスト	第13章 近代国家の展開 第14章 近代の産業と生活	元禄文化	町人が中心となって元禄文化が担われたことを理解する。	○		
		幕政の改革	享保の改革が行われるに至った社会的背景やその成果を多面的・多角的に考察する。		○	
② 期末テスト	第15章 恐慌と第二次世界大戦 第16章 占領下の日本	宝暦・天明期の文化	幕府政治のあり方を批判する思想や近代的な合理主義が生まれたことを理解する。	○		
		幕府の衰退と近代への道	寛政の改革と天保の改革が行われるに至った社会的背景やその成果を多面的・多角的に考察する。		○	
③ 学年末テスト	第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本	化政文化	三都の繁栄を背景として民衆を基盤とする町人文化が最盛期を迎えたことを理解する。	○		
		開国と幕末の動乱	幕府・朝廷・諸藩の立場から幕末の動乱の要因とその結果を多面的・多角的に考察する。		○	
③ 学年末テスト	第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本	幕府の滅亡と新政府の発足	大政奉還から明治新政府の発足に至るまでの歴史的展開を理解する。	○		
		明治維新と富国強兵	明治国家の国家目標とそれによって形作られた近代社会のあり方から時代を通観する問いを表現する。			○
③ 学年末テスト	第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本	立憲国家の成立	民権派と明治政府の立場から大日本帝国憲法の発布に至るまでの歴史的展開を多面的・多角的に考察する。		○	
		日清・日露戦争と国際関係	日清・日露戦争による日本の国際的地位の上昇と韓国併合に至る歴史的展開を理解する。	○		
③ 学年末テスト	第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本	第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦が日本の政治に与えた影響を理解する。	○		
		ワシントン体制	パリ講和会議とワシントン会議による国際協調体制の形成を日本と欧米の立場から多面的・多角的に考察する。		○	
③ 学年末テスト	第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本	近代産業の発展	日本の近代化において製糸業と紡績業が果たした役割を理解する。	○		
		近代文化の発達	明治文化における新旧と西洋・東洋などの独特な二元性のあり方を理解する。	○		
③ 学年末テスト	第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本	市民生活の変容と大衆文化	第一次世界大戦が日本の経済に与えた影響を多面的・多角的に考察する。		○	
		恐慌の時代	金輸出禁止、金解禁、金輸出再禁止という経済政策の変化の背景にある日本経済の変化を多面的・多角的に考察する。		○	
③ 学年末テスト	第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本	軍部の台頭	満洲事変によって日本が国際社会の中で孤立していく歴史的展開を理解する。	○		
		第二次世界大戦	日独伊三国同盟の形成から第二次世界大戦の終戦に至るまでの歴史的展開を多面的・多角的に考察する。		○	
③ 学年末テスト	第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本	占領と改革	日本国憲法制定の過程を日本側の動向にも着目し、多面的・多角的に考察する。		○	
		冷戦の開始と講和	朝鮮戦争による日本の安全保障環境の変化と日米安保体制の形成の歴史的意味を理解する。	○		
③ 学年末テスト	第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本	55年体制	自由民主党と日本社会党による55年体制の形成と展開が日本の戦後政治の基本構造となることを理解する。	○		
		経済復興から高度経済成長へ	高度経済成長による日本社会の変化の様相を理解する。	○		
③ 学年末テスト	第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本	経済大国への道	高度経済成長の終焉からバブル経済の発生に至るまでの日本経済の変化を多面的・多角的に考察する。		○	
		冷戦の終結と日本社会の変容	近現代史の学習を踏まえ、今後の国際社会において日本が果たすべき役割に対する問いを表現する。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
公民	政治・経済	3	3年	特進コース文系

使用教科書	副教材等
最新政治・経済(実教出版)	テーマ別資料 政治・経済2025(東京法令出版) 最新政治・経済 演習ノート(実教出版)

<p>科目の目標</p> <p>1. 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。</p> <p>2. 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養わせる。</p> <p>3. よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めさせる。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。
② 思考・判断・表現	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト</li> <li>・小テスト</li> <li>・振り返りの記述内容</li> <li>・課題、レポートなどの記述内容</li> <li>・グループワーク、プレゼンテーションなどの活動に対する取り組み</li> </ul>	

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	現代日本の政治	民主政治、法、世界の政治制度、日本国憲法(成立過程、基本原理、自由権、平等権、社会権、参政権、請求権、新しい人権)、人権の国際化	日本国憲法の基本原理と人権について、民主政治の諸原理にも着目しながら理解している。	○		
			基本的人権や法の支配の重要性について、歴史的背景にも言及しながら考察し、それらを適切に表現している。		○	
一学期期末テスト	現代日本の政治	平和主義、日米安保、国会、内閣、裁判所、地方自治、政党政治、選挙制度、世論と政治参加	公共の福祉について主体的に追究することを通して、個人と個人の権利の衝突を調整する方法を社会生活に生かそうとしている。			○
			日本国憲法の平和主義の内容と日米安保体制が生まれた背景、日本の統治機構と国政・地方自治、選挙制度について理解している。	○		
二学期中間テスト	現代の日本経済	経済思想、市場機構、企業、国民所得と経済成長、金融、財政、戦後日本経済史	教科書の記述の内容理解を踏まえたうえで、平和主義や統治機構、地方自治、選挙について多面的に考察し、適切に表現している。		○	
			日本の政治制度を理解したうえで、身近な地域の興味関心を持ち、人口動向が地域に与える影響や一極集中にともなう課題の解決策などを積極的に追究している。			○
			生産・分配・消費、希少性、トレードオフ、機会費用など、経済の根本的な概念について理解している。	○		
			資本主義経済の成立以降、社会がいかに変容し、それに伴い経済制度がどのように展開していったか、企業・政府の役割の変化と関連させて考察している。		○	
			経済成長による経済的な豊かさと幸福について、数値化することが困難な経済活動や生活の諸行動をどのように評価するべきかという観点から、主体的に考えを導きだそうとしている。			○

二学期期末テスト	現代の日本経済	中小企業、農業、消費者問題、公害・環境問題、労働問題、社会保障	典型的な消費者問題や悪質商法にはどのようなものがあるかなど、経済社会の一員として必要な知識を有している。	○		
			人口減少社会が直面する経済的課題について協働的に考察したうえで、そのための経済政策を選択・判断し、表現している。		○	
			よりよい社会の実現のために、他者との協働もはかりながら、経済学の視点から多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。			○
学年末テスト	現代の国際政治	国際社会と国際法、国際連合、人種・民族問題、軍拡・軍縮、日本の外交と国際関係	領土問題など、国際問題がなぜ生じるのか、また、どのように解決することが望まれているのかを理解している。	○		
			国連改革・安保理改革の必要性など国際社会が抱える政治的問題について、協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。		○	
			国際貢献について主体的に追究し、政府レベルや企業レベル、市民レベルの観点から、課題を意欲的に解決しようとしている。			○
現代の国際経済	貿易と国際収支、外国為替市場、戦後国際経済史、地域経済統合・グローバル化、新興国・途上国、地球環境問題、資源・エネルギー、経済協力と日本の役割	円高や円安が日本経済に与える影響について、輸入業者や輸出業者の具体的な取引をもとに理解している。	○			
		グローバル化と地域的経済統合など、賛否の分かれる国際経済上の問題に対して、自由と公正の観点から協働的に考察し、適切に表現している。		○		
		世界の貧困状況やそれを解消するための取り組みについて興味関心をもち、「国際経済格差の是正を探究するための意欲を高めている。			○	

教科	科目	単位数	学年	集団
地理歴史	地理探究	3	3年	特進コース理系

使用教科書	副教材等
地理探究・基本地図帳	新編フォトグラフィア

<p>科目の目標</p> <p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	知識:地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 技能:地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味・意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容への取り組み</li> <li>・発問評価</li> <li>・課題、提出物の内容</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期テスト</li> <li>・振り返りの内容</li> <li>・対話的な学びに対する取り組み</li> </ul>
------	--

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期 中間テスト	自然環境	地形 気候と生態系 世界各地の自然と生活	諸事象の規則性、傾向性や、地域性などについて理解することができる。 主題を基に多面的・多角的に考察し、表現することができる。 よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○
	資源と産業	農林水産業 資源・エネルギー 工業 第3次産業	諸事象の規則性や、課題の解決に向けた取組などについて理解することができる。 多面的・多角的に考察し、表現することができる。 よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○
一学期 期末テスト	資源と産業	交通・通信 貿易・観光	諸事象の規則性や、問題の解決に向けた取組などについて理解することができる。 多面的・多角的に考察し、表現することができる。 よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○
	人口、村落・都市	人口 村落・都市	諸事象の規則性や、問題の解決に向けた取組などについて理解することができる。 集落の機能や形態などに注目して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○
	文化と国家	生活文化と言語・宗教 国家とその領域	諸事象の規則性や、問題の解決に向けた取組などについて理解することができる。 多面的・多角的に考察し、表現することができる。 よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○
二学期 中間テスト	現代世界の諸地域	中国・朝鮮半島 東南アジア・南アジア 西アジア・中央アジア 北アフリカ・サブサハラアフリカ	地理的要因について、経済成長と関連づけながら理解することができる。 地理的要因について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 経済成長に着目し、隣国や日本との関係を踏まえつつ追究しようとしている。	○	○	○

二学期期末テスト	現代世界の諸地域	ヨーロッパ・ロシア アングロアメリカ・ラテンアメリカ オーストラリア ニュージーランドと島嶼国	地理的要因について、その特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。	○		
			地理的要因について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。		○	
			地理的要因に関して、隣国や日本との関係を踏まえつつ追究しようとしている。			○
学年末テスト	自然環境	日本の自然環境と防災	諸事象の規則性や、問題の解決に向けた取組などについて理解することができる。	○		
			多面的・多角的に考察し、表現することができる。		○	
			よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。			○
	地球環境問題	諸事象の規則性や、問題の解決に向けた取組などについて理解することができる。	○			
		多面的・多角的に考察し、表現することができる。		○		
			よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
数学	数学Ⅲ	3	3年	特進コース理系 選択

使用教科書	副教材等
数研出版 高等学校 数学Ⅲ	4プロセス数学Ⅲ

<p>科目の目標</p> <p>(1)極限、微分法、積分法についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。</p> <p>(2)式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりして、極限を求める方法を考察する力、導関数の定義に基づき、三角関数、指数関数及び対数関数の導関数を考察する力、関数の式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりして、いろいろな関数の不定積分や定積分を求める方法について考察する力を養う。</p> <p>(3)数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
---

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	極限、微分法、積分法についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。
② 思考・判断・表現	式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりして、極限を求める方法を考察する力、導関数の定義に基づき、三角関数、指数関数及び対数関数の導関数を考察する力、関数の式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりして、いろいろな関数の不定積分や定積分を求める方法について考察する力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。

<p>評価方法</p> <p>知識・技能の評価:テスト、小テスト、レポート課題の点数をもとに評価する。</p> <p>思考・判断・表現の評価:テスト、小テストの点数、レポート課題の点数をもとに評価する。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度:知識・技能や思考・判断・表現の評価をふまえながら、テストの点数、授業内でのレポートへの取り組み方、授業後の振り返り等もとに評価する。</p>
---

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
二学期中間テスト	・関数	・関数	いろいろな関数の一般形を理解することができる。	○		○
	・極限	・数列の極限	簡単な数列・関数の極限を求めることができる。	○		○
	・微分法	・関数の極限	式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりして、極限を求める方法を考察することができる。		○	○
二学期期末テスト	・微分法	・導関数	微分可能性、積及び商の導関数について理解し、導関数を求めることができる。	○		○
	・積分法	・いろいろな導関数	三角関数、指数関数及び対数関数の導関数について理解し、求めることができる。	○		○
	・積分法	・不定積分	関数の連続性と微分可能性、関数とその導関数や第二次導関数の関係について考察できる。		○	○
学年末テスト	・積分法	・定積分	不定積分及び定積分の基本的な性質についての理解を深め、それらを用いて不定積分や定積分を求めることができる。	○		○
	・積分法	・積分法の応用	置換積分法及び部分積分法について理解し、簡単な場合について、それらを用いて不定積分や定積分を求める	○		○
			定積分を利用して、いろいろな曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積及び曲線の長さなどを求めることができる。		○	○
			極限や定積分の考えを基に、立体の体積や曲線の長さなどを求める方法について考察することができる。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
数学	数学ⅠAⅡB演習	3	3年	特進コース 選択

使用教科書	副教材等
	トライEX NEO 数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C 受験編

<p>科目の目標</p> <p>(1)数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、図形の性質、場合の数と確率、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分、数列及び統計的な推測の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。</p> <p>(2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて変形する力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力、図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したり、離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。</p> <p>(3)数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
---

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、図形の性質、場合の数と確率、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分、数列及び統計的な推測の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。
② 思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて変形することができる。図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察することができる。不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したり、離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身につける。
③ 主体的に学習に取り組む態度	数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

<p>評価方法</p> <p>知識・技能の評価:テスト、小テスト、レポート課題の点数をもとに評価する。          思考・判断・表現の評価:テスト、小テストの点数、レポート課題の点数をもとに評価する。          主体的に学習に取り組む態度:知識・技能や思考・判断・表現の評価をふまえながら、テストの点数、授業内でのレポートへの取り組み方、授業後の振り返り等もとに評価する。</p>
---

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
二学期 中間 テスト	数と式 2次関数 図形と計量 データの分析 場合の数と確率 図形の性質		二次の展開公式及び因数分解の公式の理解を深める。	○		○
			二次関数の式とグラフの関係について、多面的に考察する。		○	○
			正弦定理や余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求める。	○		○
			データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する。		○	○
二学期 期末 テスト	式と証明 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数・対数 微分法・積分法 数列 統計的な推測		確率の意味や基本的な法則について理解を深め、確率や期待値を求める。	○		○
			三角形や円、空間図形に関する基本的な性質について理解する。	○		○
			因数定理について理解し簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。	○		○
			座標平面上の直線や円を方程式で表すことができる。	○		○
学年	総合演習		三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解できる。	○		○
			指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察することができる。		○	○
			微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができる。	○		○
			等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。	○		○
			二項分布と正規分布の性質や特徴について理解できる。	○		○

|


教科	科目	単位数	学年	集団
数学	数学C	2	3年	特進コース

使用教科書	副教材等
数研出版 高等学校 数学C	4プロセス 数学C

<p>科目の目標</p> <p>(1)ベクトル、複素数平面、式と曲線についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。</p> <p>(2)ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察できる力、複素数平面における図形の移動などと関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察ができる力、放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察する力を養う。</p> <p>(3)数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
---

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。
② 思考・判断・表現	ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察できる力、複素数平面における図形の移動などと関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察ができる力、放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察する力を身につける。
③ 主体的に学習に取り組む態度	数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

<p>評価方法</p> <p>知識・技能の評価:テスト、小テスト、レポート課題の点数をもとに評価する。</p> <p>思考・判断・表現の評価:テスト、小テストの点数、レポート課題の点数をもとに評価する。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度:知識・技能や思考・判断・表現の評価をふまえながら、テストの点数、授業内でのレポートへの取り組み方をもとに評価する。</p>
--

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	・平面上のベクトル	・ベクトルとその演算	ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解できる。	○		○
		・ベクトルと平面図形	実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察できる。		○	○
	・空間のベクトル	・空間のベクトル	座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解できる。	○		○
			ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察できる。		○	○
一学期期末テスト	・複素数平面	・複素数平面	複素数平面と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味を理解できる。	○		○
			複素数平面における図形の移動などと関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察できる。		○	○
	・式と曲線	・2次曲線	放物線、楕円、双曲線が二次式で表されること及びそれらの二次曲線の基本的な性質について理解できる。	○		○
			・媒介変数表示と極座標	放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察できる。		○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	物理基礎	2	3年	特進コース文系・理系選択

使用教科書	副教材等
新編 物理基礎 (数研出版)	新課程 フォローアップドリル物理基礎 運動の表し方・力・運動方程式 (数研出版) 新課程 フォローアップドリル物理基礎 仕事とエネルギー・熱 (数研出版) 新課程 フォローアップドリル物理基礎 波・電気 (数研出版)

科目の目標
<p>物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができる。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。</p> <p>(3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度をもつことができる。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>物体の運動と様々なエネルギーについて理解することができる。</li> <li>実験に関して、必要な観察や基本的な技能を身に付けることができる。</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の運動や種々の現象に関して課題を発見し、エネルギーの変化に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを表現することができる。</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の運動やその変化に関心をもつことができる。</li> <li>日常生活と学習事項の関連性に対し、疑問をもつことができる。</li> </ul>

評価方法
<p>知識・技能: 定期テスト、小テスト、授業プリント、ノート等          思考・判断・表現: 授業プリント、グループワークの取組等          主体的に学習に取り組む態度: 授業振り返りシート、課題や提出物の取組状況等</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期 中間テスト	物体の運動とエネルギー	運動の表し方 物理量の測定と扱い方 運動の表し方 直線運動の加速度	<p>物体の運動の表し方を理解し、直線運動における加速度の求め方を身につけている。</p> <p>直線上で運動する場合の物体の変位について、速度と加速度の関係を表現することができる。</p> <p>学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。</p>	○		○
一学期 期末テスト	物体の運動とエネルギー	様々な力とその働き 様々な力 力のつり合い 運動の法則 物体の落下運動	<p>身の周りにある様々な力について、つりあっている場合や運動している倍についてどのようなことが起こるかを考えることができる。</p> <p>物体の運動について、運動の三法則を用いて説明することができる。</p> <p>学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。</p>	○	○	○
二学期 中間テスト	物体の運動とエネルギー	力学的エネルギー 運動エネルギーと位置エネルギー 力学的エネルギーの保存	<p>各物体についての運動エネルギーと位置エネルギーについて理解することができる。</p> <p>エネルギーの変化を用いて思考し、力学的エネルギーの保存について表現することができる。</p> <p>学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。</p>	○	○	○
二学期 期末テスト	様々な物理現象とエネルギーの利用	波 波の性質 音と振動 熱 熱と温度 熱の利用	<p>波の性質や熱について理解し、エネルギー変化の考えを用いて求めることができる。</p> <p>波や熱の性質を用いて、日常にある現象について表現することができる。</p> <p>学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。</p>	○	○	○
三学期 学年末テスト	様々な物理現象とエネルギーの利用	電気 物質と電気抵抗 電気の利用 エネルギーとその利用 物理学が拓く世界	<p>電気の性質や抵抗などの電気回路について理解し、実験を通じて身につけることができる。</p> <p>電気の基本的な知識を用いて、日常に用いられている様々なエネルギーについて思考し、現象について表現することができる。</p> <p>学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。</p>	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	生物基礎	2	3年	特進コース理系 選択

使用教科書	副教材等
新編 生物基礎 (数研出版)	改訂版 リードLightノート (数研出版)

<p><b>科目の目標</b></p> <p>日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を身に付けることを目指す。</p> <p>・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</p> <p>・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>
--

<b>評価の観点とその趣旨</b>	
① 知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。
② 思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしている。

<p><b>評価方法</b></p> <p>知識・技能: 定期テスト、小テスト、授業プリント、ノート等          思考・判断・表現: 授業プリント、グループワークの取組等          主体的に学習に取り組む態度: 授業振り返りシート、課題や提出物の取組状況等</p>
--

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期 中間テスト	生物の特徴	生物の多様性と共通性 エネルギーと代謝 呼吸と光合成	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物がもつ共通性について理解している。</li> <li>生命活動にはエネルギーが必要であることを理解できる。</li> <li>さまざまな生物の比較に基づいて、すべての生物に見られる特徴について考え、共通性を見いだすことができる。</li> <li>学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。</li> </ul>	○		○
一学期 期末テスト	遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNA 遺伝情報の複製と分配 遺伝情報の発現	<ul style="list-style-type: none"> <li>DNAの構造および塩基の相補性を理解する。</li> <li>体細胞分裂の過程でDNAが複製され、分配されることを理解する。</li> <li>DNAの構造の模式図をもとに、DNAが4種類の塩基からなること、塩基の結合はAとT、GとCの間で起こるとい規則性に気づき、説明できる。</li> <li>学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。</li> </ul>	○	○	○
二学期 中間テスト	ヒトの体内環境の維持	体内での情報伝達と調節 免疫のはたらき	<ul style="list-style-type: none"> <li>自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解する。</li> <li>免疫のはたらきを理解する。</li> <li>運動によって心拍数が増加するしくみを考察し、説明できる。</li> <li>学習内容をもとに、病原体に対する免疫のはたらきを考察できる。</li> <li>学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。</li> </ul>	○	○	○
二学期 期末テスト	生物の多様性と生態系	植生と遷移 植生の分布とバイオーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。</li> <li>世界や日本に見られるさまざまなバイオームの成立条件を理解する。</li> <li>遷移の過程を示した資料をもとに遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し説明できる。</li> <li>学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。</li> </ul>	○	○	○
三学期 学年末テスト	生物の多様性と生態系	生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系がどのように構成されているのかを理解する。</li> <li>生態系保全のために行われている活動を理解する。</li> <li>生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。</li> <li>学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。</li> </ul>	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	化学基礎演習	2	3年	特進コース文系

使用教科書	副教材等
新編 化学基礎(数研出版)	大学入試共通テスト対策 つかむ化学基礎(浜島書店)

科目の目標
<p>問題演習を通じて基本的な問題を解く力を身に付けるとともに、物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を以下の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけることができる。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。</p> <p>(3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究する態度をもつことができる。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質とその変化について理解することができる。</li> <li>実験に関して、必要な観察や基本的な技能を身につけることができる。</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質やその変化に関して課題を発見し、物質の結合の変化に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを表現することができる。</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質とその変化に関心をもつことができる。</li> <li>日常生活と学習事項の関連性に対し、疑問をもつことができる。</li> </ul>
評価方法	<p>知識・技能: 定期テスト、小テスト、授業プリント、ノート等</p> <p>思考・判断・表現: 授業プリント、グループワークの取組等</p> <p>主体的に学習に取り組む態度: 授業振り返りシート、課題や提出物の取組状況等</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	化学と人間生活	化学と物質 化学の特徴 物質の分離・生成 単体と化合物 熱運動と物質の三態	単体や化合物、粒子の熱運動の関係について理解し、物質の分離や生成方法について実験を通じて身につけている。	○		
			日常にある物質を単体や化合物と判断したり、熱運動と温度の関係を表現することができる。		○	
一学期期末テスト	物質の構成	物質の構成粒子 原子の構造 電子配置と周期表	原子の構造やその構成粒子について理解し、周期表と関連付けて考えることができる。	○		
			各元素の性質について、周期表の元素の位置関係から説明することができる。		○	
二学期中間テスト	物質の構成	物質と化学結合 イオンとイオン結合 分子と共有結合 金属と金属結合	イオン結合、共有結合、金属結合の違いについて理解することができる。	○		
			結合の違いにより各物質にどのような違いが生じるのかを思考し、表現することができる。		○	
二学期中間テスト	物質の変化とその利用	物質と化学反応式 物質質量 化学反応式	原子量、物質質量について理解し、化学反応の量的関係について求めることができる。	○		
			物質質量が意味することについて説明を行うことができ、化学反応に関する量の関係について表現することができる。		○	
三学期学年末テスト	物質の変化とその利用	化学反応 酸・塩基と中和 酸化と還元 化学が拓く世界	酸と塩基の関係、酸化と還元について理解し、実験を通じて身につけることができる。	○		
			中和における量的関係や酸化還元反応における電子の授受を思考し、減少について表現することができる。		○	
			学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	生物基礎	2	3年	特進コース理系 選択

使用教科書	副教材等
新編 生物基礎 (数研出版)	改訂版 リードLightノート (数研出版)

<p>科目の目標</p> <p>日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を身に付けることを目指す。</p> <p>・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</p> <p>・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>
---

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。
② 思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしている。
評価方法	
<p>知識・技能: 定期テスト、小テスト、授業プリント、ノート等</p> <p>思考・判断・表現: 授業プリント、グループワークの取組等</p> <p>主体的に学習に取り組む態度: 授業振り返りシート、課題や提出物の取組状況等</p>	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期 中間テスト	生物の特徴	生物の多様性と共通性 エネルギーと代謝 呼吸と光合成	・生物がもつ共通性について理解している。	○		
			・生命活動にはエネルギーが必要であることを理解できる。			
			・さまざまな生物の比較に基づいて、すべての生物に見られる特徴について考え、共通性を見いだすことができる。			
		・学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。			○	
一学期 期末テスト	遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNA 遺伝情報の複製と分配 遺伝情報の発現	・DNAの構造および塩基の相補性を理解する。	○		
			・体細胞分裂の過程でDNAが複製され、分配されることを理解する。			
			・DNAの構造の模式図をもとに、DNAが4種類の塩基からなること、塩基の結合はAとT、GとCの間で起こるとい規則性に気づき、説明できる。			
		・学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。			○	
二学期 中間テスト	ヒトの体内環境の維持	体内での情報伝達と調節 免疫のはたらき	・自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解する。	○		
			・免疫のはたらきを理解する。			
			・運動によって心拍数が増加するしくみを考察し、説明できる。			
		・学習内容をもとに、病原体に対する免疫のはたらきを考察できる。			○	
		・学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。			○	
二学期 期末テスト	生物の多様性と生態系	植生と遷移 植生の分布とバイオーム	・植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。	○		
			・世界や日本に見られるさまざまなバイオームの成立条件を理解する。			
			・遷移の過程を示した資料をもとに遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し説明できる。			
		・学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。			○	
三学期 学年末テスト	生物の多様性と生態系	生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全	・生態系がどのように構成されているのかを理解する。	○		
			・生態系保全のために行われている活動を理解する。			
			・生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。			
		・学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。			○	

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	物理	4	3年	特進コース理系 選択

使用教科書	副教材等
新編 物理(数研出版)	改訂版 リードLightノート物理(数研出版)

<p>科目の目標</p> <p>物理的な事象・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事象・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3)物理的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
---

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解をしている。 科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようとしている。
② 思考・判断・表現	物理的な事象・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど科学的に探究している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	物理的な事象・現象に主体的に関り、見通しをもって振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

評価方法
知識・技能: 定期テスト、小テスト、授業プリント、ノート等 思考・判断・表現: 授業プリント、グループワークの取組等 主体的に学習に取り組む態度: 授業振り返りシート、課題や提出物の取組状況等

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期 中間テスト	力と運動	平面内の運動 剛体 運動量の保存	平面内を運動する物体の運動について理解し、放物運動と直線運動を関連付けて思考することができる。	○	○	
			実験や観察を通して大きさのある物体のつり合いについて思考し、剛体の釣り合う条件を見いだそうとすることができる。		○	○
			運動量と力積の関係を理解し、衝突における力学的エネルギーの変化について表現することができる。		○	
一学期 期末テスト	力と運動 熱と気体	円運動と万有引力 気体のエネルギーと状態 変化	円運動する物体に働く力を理解しその様子を表現することができる。		○	
			気体分子の運動と圧力、気体の内部エネルギーの関係を関連付けて理解しようとする事ができる。	○		
			状態変化などの実験や観察を通して熱、仕事、内部エネルギーの関係を表現することができる。		○	○
二学期 中間テスト	波	波の伝わり方 音の伝わり方 光	実験や観察を通して波の伝わり方とその表し方、波の干渉と回折を理解する。	○		
			音の干渉と回折やドップラー効果について理解し身の周りの現象を科学的に表現しようとする事ができる。		○	
			光の回折と干渉に関する実験や観察を通して光に関する現象と光波の性質を関連付けて理解しようとする事ができる。	○		○
二学期 期末テスト	電気と磁気	電場 電流 電流と磁場 電磁誘導と電磁波	電荷の性質と電場の関係を用いて、電位を静電気による位置エネルギーと関連付けて理解することができる。	○		
			電流がつくる磁場、電流が磁場から受ける力について理解し電流と磁場が相互に関係していることを表現することができる。		○	
			実験や観察を通して磁束の変化と誘導起電力の向きや大きさの関係を見いだして理解するとともに交流の発生を関連付けて思考できる。		○	○
三学期 学年末テスト	原子	電子と光 原子と原子核 物理学が築く未来	電子や光の粒子性と波動性について理解するとともに身の周りの現象との関連性を見いだして表現することができる。		○	
			原子の構造と電子のエネルギー準位を関連付けて理解することができる。	○		
			物理学の成果が様々な分野で利用され、新しい科学技術の基盤となっていることを理解する。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	生物	4	3年	特進コース理系 選択

使用教科書	副教材等
新編 生物(数研出版)	改訂版 リードLightノート生物(数研出版) 改訂版 フォトサイエンス生物(数研出版)

<p><b>科目の目標</b></p> <p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>
--

<b>評価の観点とその趣旨</b>	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物現象や生態系について理解することができる。</li> <li>実験に関して、必要な観察や基本的な技能を身に付けることができる。</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物現象や生態系に関して課題を発見し、課題解決に向けた方法を思考、判断するとともに、それらを表現することができる。</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物現象や生態系に興味・関心をもつことができる。</li> <li>日常生活と学習事項の関連性に対し、疑問をもつことができる。</li> </ul>

<b>評価方法</b>
<p>知識・技能: 定期テスト、小テスト、授業プリント、ノート等</p> <p>思考・判断・表現: 定期テスト、授業プリント、グループワークの取組等</p> <p>主体的に学習に取り組む態度: 授業振り返りシート、授業内アンケート、課題や提出物の取組状況等</p>

<b>学習計画</b>						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期 中間テスト	生物の進化	生命の起源と生物の進化 遺伝子の変化と多様性 遺伝子の組み合わせの変化 進化のしくみ 生物の系統と進化	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物の形質の変化が、突然変異によって生じることを理解する。</li> </ul>	○		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>遺伝子の変化と形質の変化を示した資料を比較し、遺伝子が増えたり減ったりすると、形質が変化することを見いだすことができる。</li> <li>遺伝子の変化と多様性に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。</li> </ul>		○	○
一学期 期末テスト	細胞と分子代謝	生物物質と細胞 化学反応にかかわるタンパク質 代謝とエネルギー 呼吸と発酵 光合成	<ul style="list-style-type: none"> <li>生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり、反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。</li> </ul>	○		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>生体内の化学反応のうち、酸化還元反応を伴う反応では、大きなエネルギーの出入りが起こることを理解し、説明することができる。</li> <li>代謝とエネルギーに関心を持ち、主体的に学習に取り組める。</li> </ul>		○	○
二学期 中間テスト	遺伝情報の発現と発生 動物の反応と行動	DNAの構造と複製 遺伝情報の発現 遺伝子の発現調節 遺伝子を扱う技術 情報の統合 動物の行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解する。</li> </ul>	○		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>遺伝子組換え技術によって、ある生物の遺伝子を別の生物に発現させることができる理由を考え、説明することができる。</li> <li>遺伝子を扱う技術に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。</li> </ul>		○	○
二学期 期末テスト	植物の環境応答	植物の生活と植物ホルモン 発芽の調節 成長の調節 器官の分化と花芽形成の調節 環境の変化に対する応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>植物の成長が光や重力などの要因によって調節されていることを理解する。</li> </ul>	○		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>植物が重力方向を感知できなくなった場合、自然界での成長においてどのような不都合があるかを考え、説明することができる。</li> <li>成長の調節に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。</li> </ul>		○	○
三学期 学年末テスト	生物群集と生態系	個体群の構造と性質 個体群内の個体間の関係 異なる種の個体群間の関係 生態系の物質生産と物質循環	<ul style="list-style-type: none"> <li>個体群の個体数の変化には、その個体群の年齢構成や年齢ごとの死亡率などが影響することを理解する。</li> </ul>	○		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>生存曲線のそれぞれの型が有利になる生息環境について、その生物がおかれている状況と年齢ごとの死亡率を関連させて推測できる。</li> <li>個体群の構造と性質に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。</li> </ul>		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	化学	2	3年	特進コース理系

使用教科書	副教材等
新編 化学(数研出版)	新課程 リードLightノート化学(数研出版) 新課程 フォローアップドリル化学 物質の状態(数研出版) 新課程 フォローアップドリル化学 熱化学・反応速度・化学平衡(数研出版)

科目の目標
<p>化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けることができる。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。</p> <p>(3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度をもつことができる。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学の基本的な概念や原理・法則について理解することができる。</li> <li>実験に関して、必要な観察や基本的な技能を身につけることができる。</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の構成やその変化に関して課題を発見し、課題解決に向けた方法を思考、判断するとともに、それらを表現することができる。</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の変化に関心をもつことができる。</li> <li>日常生活と学習事項の関連性に対し、疑問をもつことができる。</li> </ul>

評価方法
<p>知識・技能: 定期テスト、小テスト、授業プリント、ノート等</p> <p>思考・判断・表現: 定期テスト、授業プリント、グループワークの取組等</p> <p>主体的に学習に取り組む態度: 授業振り返りシート、課題や提出物の取組状況等</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期 中間テスト	物質の変化 無機物質	電池と電気分解 非金属元素	電気エネルギーの出し入れに関わる電池や電気分解の仕組みを酸化還元反応と関連付けて理解することができる。	○		
			電池や電気分解に関与する物質の変化量と電気量を関連付けて思考することができる。		○	
一学期 期末テスト	無機物質	金属元素	典型元素の性質が周期表に基づいていることを理解するとともに、身近な物質との関連に関心をもつことができる。	○		○
			観察や実験を通して身近な物質と関連付けて金属元素の性質を理解しようすることができる。	○		○
			典型元素と遷移元素の性質における規則性や相違性を見いだして表現することができる。		○	○
二学期 中間テスト	有機化合物	有機化合物の分類と分析 脂肪族炭化水素	非金属元素と金属元素の違いを周期表や化学結合と関連付けて理解することができる。	○		
			脂肪族炭化水素の性質や反応を理解しようすることができる。	○		
			脂肪族炭化水素の性質や反応を構造と関連付けて考察することができる。		○	
二学期 期末テスト	有機化合物	アルコールと関連化合物 芳香族化合物	脂肪族炭化水素の構造や性質に基づいて日常生活や人間社会で利用されていることを見いだすことができる。			○
			官能基のもつ性質を理解し、各官能基との類似性や相違点に関心をもつことができる。	○		○
			芳香族化合物の構造、性質及び反応を脂肪族化合物と規則性や相違性を見いだして思考しようすることができる。		○	○
三学期 学年末テスト	高分子化合物 化学とともに歩む	高分子化合物の性質 天然高分子化合物 合成高分子化合物	官能基や芳香族化合物の性質を論理的に用いて有機化合物の特定することができる。		○	
			合成高分子化合物や天然高分子化合物の構造や性質を理解しようすることができる。	○		
			合成高分子化合物の合成を理解し化学工業と日常生活との関連を見いだそうすることができる。		○	○
			物質の役割を生かして日常生活で利用されていることや、化学の成果が果たす役割を科学的に考察し、表現することができる。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	体育	2	3年	3学年

使用教科書	副教材等
	ステップアップ高校スポーツ(大修館書店)

<p>科目の目標</p> <p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>
---

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の多様性や体力の必要性について理解している。</li> <li>・運動が豊かに継続することができるようにするための技能を身に付けている。</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<p>自己や仲間の課題や豊かなスポーツライフを継続するための課題を発見し、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合理的、計画的な解決に向けて思考し判断する力を身に付けている。</li> <li>・解決の仕方や気付いたこと等について自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<p>運動における競争や協働の経験を通して、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を高めようとしている。</li> <li>・健康・安全を確保したり、運動を主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の知識・技能の点検、確認、分析(スキルテスト、定期テスト、発表会、学習プリント・ノート等)</li> <li>・記述の点検、確認、分析(学習プリント・ノート、グループワーク等)</li> <li>・取組状況の観察、確認(グループ活動の姿勢、安全性の確保、授業への取組状況 等)</li> </ul>	

学習計画				評価の観点		
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	①	②	③
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 (集団行動、体ほぐし)	集合、整頓、列の増減、方向変換などの仕方を理解し、行動できる。	○		
			定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることを理解できる。	○		
			いろいろな体ほぐしの運動を行うことを通して、気付いたり、仲間と関わりあったりしている。		○	
			集団行動や体ほぐし運動を自主的に取り組むとともに、健康・安全を確保し活動している。			○
5	球技	ネット型	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、学習した具体例を挙げている。	○		
			役割に応じて、捨ったりつないだり打ち返したりすることができる。	○		
			選択した球技について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		○	
		ベースボール型	球技の学習に自主的に取り組もうとしている。			○
			身体の軸を安定させてバットを振りぬくことができる。	○		
			移動しながらボールを捕ること、一連の動きでねらった方向へ投げることができる。	○		
6	水泳	平泳ぎ、メドレー (スタート、ターン)	バット操作、ボール操作及びボールを持たないときの動きなどの改善についてについてのポイントを発見している。		○	
			自己やチームの課題の解決に向けて、自己の考えを述べたり相手の話を聞いたりしている。			○
			各種目で用いられる技術の名称やポイントを理解し、それぞれの技術を実践することができる。	○		
			合理的な動きと自己の動きを比較して、成果や改善すべきポイントを見付けることができる。		○	
			自主的に取り組むとともに、事故防止の心得を遵守し健康・安全を確保している。			○

7	体育理論	スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術 技能の上達過程と練習	技能と体力の関係や高めるときに気を付けるべき点を説明できる。 技能の型の違いやそれぞれの練習のしかたを説明できる。 練習によって技能が上達すると、どのような特徴がみられるかをあげることができる。	○	○	○
9	体づくり運動	実生活に生かす運動の計画 (新体力テスト、体力を高める)	運動には体力向上の原則があることを理解し、運動のねらいやバランスを考え、自分にあった運動を計画し取り組むことができる。 運動のねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定することができる。 自主的に取り組むとともに、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保すること。	○	○	○
10	陸上競技	短距離走	記録の向上につながる動きのポイントを理解し、技術と関連させた運動や練習を継続して行うことができる。 合理的なフォームを身に付けることでタイムの短縮を図ることができる。 自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。	○	○	○
		ハードル走	自主的に取り組むとともに、結果を冷静に受け止め、課題解決に向けて、お互いに助け合い、教え合おうとしている。	○	○	○
11	球技 ダンス	ゴール型 (男子)	スタートダッシュからリズムカルにスピードを維持しながらハードルを越えることができる。 ハードルを低く素早く越えながらタイムを短縮したり、競争したりすることができる。 自己や仲間の課題について、言葉や文章で表したり、他者に分かりやすく伝えたりしている。 自主的に取り組むとともに、結果を冷静に受け止め、課題解決に向けて、お互いに助け合い、教え合おうとしている。	○	○	○
		現代的なリズムのダンス (女子)	球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。 安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。	○	○	○
12	体育理論	効果的な動きのメカニズム 体カトレーニング 運動やスポーツでの安全の確保	ダンスには、その踊りの特徴と表現の仕方があることを理解している。 リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせ、動きに変化を付けて踊ることができる。 ダンスの特徴に合わせて、よい動きや表現と自己や仲間の動きや表現を比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間と伝え合い、合意形成を図っている。 課題について、互いに助け合い教え合おうとしている。	○	○	○
			体の動きはどのようなしくみで開始され、持続していくのかを説明できる。 目的に応じたさまざまなトレーニングの方法を説明できる。 スポーツ活動中に起きる重大な事故をあげ、せおの発生原因と予防方法を説明できる。	○	○	○
1	陸上競技	長距離走	自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。 記録の向上に有効な練習方法のやり方について、自己の考えを伝えることができる。 一人一人の技能の違いに応じた課題に自主的に取り組んでいる。	○	○	○
2	球技	ゴール型	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。 安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。	○	○	○
2	体育理論	生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ スポーツを推進する取り組み 豊かなスポーツライフの創造	社会の変化にともなってスポーツの役割がどのように変化したのかを説明できる。 「する」スポーツライフスタイルについて例をあげ説明できる。 国内でスポーツを推進してきた従来の取り組みを説明できる。 豊かなスポーツライフを創造していくための課題について例をあげて説明できる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語(英語)	英語コミュニケーションⅢ	4	3年	特進コース

使用教科書	副教材等
ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION Ⅲ	ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION Ⅲ WORKBOOK システム英単語 5訂版

科目の目標
<p>(1)聞くこと 日常的话题について、話される語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>(2)話すこと[やりとり] 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。</p> <p>話すこと[発表] 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。</p> <p>(3)読むこと 日常的话题について、使用する語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を読み取り書き手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>(4)書くこと 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めている。</li> <li>・聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。</li> </ul>
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する。</li> <li>・これらを活用して、適切に表現したり伝え合ったりする。</li> </ul>
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</li> </ul>
評価方法	
ペーパーテスト パフォーマンステスト	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	ウェブ記事	Unit 1	記事を読んだり、インタビューを聞いたりして概要を把握することができる。	○	○	
	インタビュー	Speaking Strategies 1	ある写真について、適切な表現を用いて正確に伝え合うことができる。		○	○
6	ウェブ記事	Unit 2	記事を読んだり、インタビューを聞いたりして概要を把握することができる。	○	○	
	インタビュー		教育におけるAIの利点について、複数の段落で論理的に書くことができる。		○	
9	物語	Unit 3	物語を読み、流れと教訓を読み取ることができる。	○	○	
	ストーリーテリング		自分が読んだ民話について、起承転結を意識してわかりやすく伝えることができる。		○	○
11	ニュース記事	Unit 4	タイムカプセルについてのニュース記事やディスカッションの概要を把握することができる。	○	○	
	スピーキング	Speaking Strategies 3	自分の意見を、具体的な根拠を含めて伝え合うことができる。		○	○
1	ブログ記事	Unit 5	学生生活についてのブログの記事を読み、一般論と個別の体験を読み取ることができる。	○	○	
	エッセイ		海外での生活について、2つの観点から論理的に詳しく書くことができる。		○	

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語	論理・表現Ⅲ	2	3年	特進コース

使用教科書	副教材等
EARTHRISE English Logic and Expression Ⅲ Standard	Next Stage 英文法・語法問題 Steady Steps to Writing 和文分析から始める英作文

科目の目標
(1) 話すこと[やりとり] 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。
(2) 話すこと[発表] 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。
(3) 書くこと 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・外国後の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

評価方法
ペーパーテスト パフォーマンステスト

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	意見	Part1 Lesson1	伝統的な食文化について、ペアで紹介し合うことができる。			○
	賛成・反対	Part1 Lesson2	オンライン授業について、是非の立場を明確にして意見を述べることができる。		○	○
	勧誘・招待	Part1 Lesson3	夏休みの計画について、友だちを誘うメールを作成することができる。	○	○	
	計画・意図	Part1 Lesson4	オープンキャンパスの日程について、クラスに説明することができる。		○	○
	提案・助言	Part1 Lesson5	おすすめのお店について、具体的な理由を含めて提案することができる。	○		○
一学期期末テスト	程度・譲歩	Part1 Lesson6	手助けした経験について、譲歩の表現を用いて伝え合うことができる。	○		○
	依頼・要請	Part1 Lesson7	オンラインショッピングについて、是非の立場を明確にして意見を述べるができる。		○	○
	許可	Part1 Lesson8	電子機器での情報共有について、許可を求める表現を用いて尋ねることができる。	○		○
	謝罪	Part1 Lesson9	予定の変更について、謝罪の表現を用いてメールを作成することができる。	○	○	
二学期中間テスト	パラグラフ	Part2 Lesson1	家電製品について、紹介する文を60～80語程度で書くことができる。	○	○	
	例示・列挙	Part2 Lesson2	観光地について、資料や写真を用いて2分程度の発表をすることができる。		○	○
二学期期末テスト	比較・対照	Part2 Lesson3	動物の特徴について、比較を意識しながら60～80語程度の説明文を書くことができる。	○	○	
	原因・結果	Part2 Lesson4	環境問題について、原因と結果を意識しながら2分程度の発表をすることができる。		○	○
学年末テスト	時間的順序	Part2 Lesson5	ある人物の経歴について、資料や写真を用いて2分程度の発表をすることができる。		○	○